

平成 30 年 7 月 1 日号

消費生活 Q&A

Q 暑くなると高温による自動車内での事故をよく耳にします。どのような事例がありますか。

A 閉め切った自動車内での事故は、真夏の炎天下だけでなく春先から初夏にかけても発生します。「比較的爽やかな時期は車内も高温にならないだろう」という過信も原因のひとつとされています。

最高気温 2 3 度でも車内温度は 5 0 度、ダッシュボード付近は 7 0 度を超えたテスト結果も出ています。そのような状況下で起こりうる事故例を紹介します。

- ◎ 子供の熱中症（日よけ使用でも車内 5 0 度、開窓でも 4 5 度超）
- ◎ 使い捨てライターの爆発（内封ガスの圧力上昇）
- ◎ 充電器の発火（リチウム電池内臓、室内 4 0 度以下で使用の注意書き）
- ◎ スプレー缶使用による火災、爆発（冷却、消臭、殺虫スプレーの多くは空気より重く滞留しやすい可燃性ガスが使われています。）
- ◎ 吸盤や容器の火災（太陽光によるレンズ化）
- ◎ 未開封の炭酸飲料の破裂

などが実際起こっています。いずれも車内に放置すると思わぬ事故につながる恐れがあるため、注意が必要です。

問合せ・・・消費生活センター ☎（４２２）２１５５